

すまいるたん



汐入

第69号
平成20年
5月3日

古くて新しい町 おせっ
かいの心がつなぐ 汐入

「東京の田舎でしたね」

400年以上前に高田一族によって開発された汐入（南千住8丁目）は、今の四分

の一ほどの所に1400世帯が、大正時代に建てられたという長屋、迷路のような路地、植木鉢これらの懐かしい光景がある町でした。交通の便が悪く、陸の孤島状態でしたが、カギをかけずに出掛けられる安心感のある街でした。昭和45年から始まった再開発で平成8年頃には町並みは消えてしまいました。商店街はべーとと汐入商店街振興組合と一つになり、また町会は、4つの町会がリバーパーク汐入町会と一つになりました。現在は、高層マンション・都営アパートなど30棟が建ち並ぶ町となり、人口も1万人弱と増えました。町会、商店街、民生委員が連携して新住民を受け入れ居住者全員町会員となり、町会参加世帯約4200世帯になりました。

「色々な所とつながっているのが風通しをよくできたんでしょね」

岡本宮雄さんは、リバーパーク汐入町会副会長・南千住民生委員協議会副

会長・べるぽーと汐入商店街幹事。「あらかわの心」おせっかいおじさん・おばさん運動の委員会幹事を歴任されています。

「居住者、全員に情報が伝わるようになってきているんです」

新旧問わず、全員が町会参加になるよう新しく建てられたマンションの規約に盛り込んでもらうために足を運んでいきます。このこまめな努力で隅々まで情報がいきわたる町になりました。

「生活安心カードを商店会で出しています」

商店街で買い物中に倒れた高齢者の方の身元がわからなかったことから、積極的にべるぽーと汐入商店街では高齢者の救急対策として65歳以上の方に、名前・住所・電話番号・かかりつけ医・生年月日・血液型を記入できる生活安心カードを無料で配布しています。また、町会では小学校の登下校の旗振りの他に安全パトロール隊」を結成し、約50名のボランティアが毎日交代で公園や町内のパトロールをしています。婦人も各棟に必ずおり50名近くの方がイベントのお手伝いに出てくださいています。

「おせっかいはお父さんそのもの」

娘の亜矢さんは笑って話されています。おせっかいという言葉は要らぬお世

話 余計なお世話と否定的意味で言われていますが、その根底には相手に良くなつて欲しいという日本的な考え方があります。今、自治体はもちろん企業内でも、相手のことを考えておせっかいという行動を興す人が少なくなってきたのではないのでしょうか。

「本当の安心とは、地域住民がそれぞれ温かい人情や人と人とのかわりがあつて初めて実現できるものではないでしょうか」

岡本さんの真摯な気持ちで、町会・商店街は一つにまとまり動き、汐入地区の新住民は、色々なイベントなどを通して交流を深めています。1人暮らしの高齢者に楽しんでもらおうと荒川区が始めた月1回の「いきいきサロン」は、モデル地区となり町会・商店街・民生委員・病院・包括支援センター・警察署など多くの団体が関わりを持って応援しています。

「安心・安全な街、住んでよかったなという街 汐入」

岡本さんのお店「ラ ボンヌ オカモト」は、汐入のよろず相談所です。イベント情報はこちらで手に入ります。ちょっと覗いて見ませんか。

